

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2375700826		
法人名	医療法人 聖会		
事業所名	グループホーム 若宮		
所在地	愛知県知多郡武豊町字若宮 134番地		
自己評価作成日	平成27年 11月 15日	評価結果市町村受理日	平成28年2月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigvosyoCd=2375700826-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中熱田区三本松町13番19号		
訪問調査日	平成27年12月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様が安心してゆったりと過ごして頂けるよう、利用者様とスタッフが常に寄り添い会話を多く持ち、笑い声が絶えないアットホームな雰囲気大切にしている。玄関の施錠はせず、どなたでも気軽に訪ねて頂けるよう努めている。ホームの前が通学路になっており、小学生が下校時にトイレや水分補給で寄ってくださることがあり利用者様も笑顔で迎えられ和まれている。月2回の訪問診療と週1回の訪問看護があり(同法人の病院)、それ以外でもいつでも相談できる環境になっている。また状態に応じて職員が受診支援も行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは1ユニット9名のホームであり、職員が利用者一人ひとりの状況やその方の意向等の把握を行いながら、情報を職員間で共有する取り組みが行われている。職員も利用者の担当制も活用しながら、一人ひとりに寄り添うことができるような支援に取り組んでおり、把握した情報は毎月のカンファレンスでも話し合わせ、介護計画への反映につなげている。ホームの運営母体は、様々な診療科目に対応した医療機関でもあるため、利用者の身体状態に合わせた受診支援が行われている他、入院設備も整えられていることもあり、重度の方についても対応することができる体制でもある。また、毎日の生活についても、利用者がホームで楽しく過ごすことができるような働きかけが行われており、毎日の食事作りを行ったり、利用者との地域の行事に参加したり、季節に合わせた外出行事等が行われている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	毎朝、申し送り時に「理念」を唱和して意識を深め実践に繋げている。唱和が終わると、それを聞いていた利用者様が、「ありがとうね！」と笑顔で言って下さる時もある。	法人の関連ホームとの共通の理念をホームの基本理念としており、毎日の朝礼の時間に職員間で唱和を行い、理念の共有と実践につなげている。理念はホーム内に掲示しており、訪問者にも分かるようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内会に入り、草取りやゴミ当番に参加している。地域の防災訓練には今年も利用者様と一緒に参加し地域の方が「来年もまた会いましょう！」と言って下さり利用者様も「は～い！」と笑顔で言われていた。	ホームは町内会に入り、地域の方にもホームに来てもらうように取り組んでおり、地域の小学生がホームに寄るなど、交流につながっている。また、地域の祭事にはホームからも利用者と参加する機会をつくっている。	ホームでは、以前は敷地の畑の手入れを行っていただけた方がいたが、現状は、畑が利用されていない。ホームの畑を通じて、地域の方との交流につながることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	役場が主催している3A運動(挨拶・安全・安心)に登録し玄関に旗を掲げることで今でも小学校の児童がトイレや雨宿り・水分補給で立ち寄ってくれる環境が続いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	福祉課・包括支援センター・区長・民生委員・利用者様・ご家族に参加して頂き行事の報告やその時の課題を挙げ意見交換している。特にご家族からの意見は大切に受け止め反映できるよう努めている。	会議は、関連のホームとの合同で開催されており、各ホームからの報告を行いながら、ホームへの理解を深めてもらうように取り組んでいる。また、関連ホームの現状を知る機会でもあるため、職員間での情報交換にもつながっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	運営推進会議や毎月開催されている町主催ケアマネの集いでの交流で、協力関係を築くよう取り組んでいる。また常に主任ケアマネと連絡を取りアドバイスをもらっている。	町の関係職員とは、関連ホームの管理者を通じて情報交換等が行われているが、地域包括支援センターも参加している「ケアマネの集い」には、ホームからも参加する機会をつくっている。また、町の福祉まつりへの参加を通じた交流等も行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	玄関の施錠はせず、外に出ようとしたり何かしようとする事には制止せず、寄り添うようにしている。介護者本位のケアになっていないかを常に意識しながら身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	ホームは、身体拘束を行わない方針のもと、日中は玄関やユニット入り口に施錠を行っておらず、利用者の見守りと一緒に外に出る取り組みが行われている。また、運営法人で研修会の機会がつけられており、職員の振り返りにつなげている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待に関しても、「あってはならないこと！」と職員が認識して日々のケアに取り組んでいる。「虐待？」と思われるようなことがあれば、全職員で話し合い再認識できるよう努める。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	昨年より、一人の利用者様が成年後見制度を利用されており 必要に応じて関係者の方と話し合いを持っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時は、重要事項説明書に基づき納得して頂けるまで説明し、心配なことや分からない事がないかを尋ね不安が残らないよう努めている。その後も何かあれば遠慮なく言ってお話している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族には、面会に来られたときや電話で伺うようにしている。外部からの意見も含め全て職員全員で共有し、運営に反映させている。利用者の声にも耳を傾けるよう努めている。	ホームでは、家族にも案内を行いながら食事会の機会をつくっており交流につなげている。意見や要望等については、ホーム管理者の他、法人の担当職員が対応することができる体制でもある。また、2か月に1回のホーム便りの発行が行われている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	朝の申し送り時やミーティングで意見を聞くようにし、個人的にも話を聞ける環境作りを努めている。その意見や提案を業務改善に反映させている。	ホームは1ユニットの体制であるため、ミーティングの他にも日常的に職員間で意見交換や情報の共有が行われている。管理者が把握した職員からの意見等については、法人の関連事業所との会議等にも報告され、運営への反映につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	管理者は、日々の勤務状況や伝えるべき個々の努力や実績は法人に報告している。また職員の希望があれば法人の幹部と面談できるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	随時 届く研修案内には順番に参加できるようにしている。その外部研修後は、ホーム内で伝達講習として勉強会を行っている。また隔月で担当者がテーマを決めた勉強会も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	同法人内 3グループホームの管理者が、話し合う機会を持ち相互で向上できるよう努めている。また外部研修等で同業者と交流した際に、得られた良い情報は全職員で共有し、質の向上に繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居申し込み時の情報を、しっかり把握した上で面談に臨み、ご本人が話し易い雰囲気になるよう心掛けている。笑顔で優しく接しながら傾聴し信頼関係を築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご家族の思いをしっかりと汲み取り安心してサービスを受けて頂けるよう、誠意を持ったお話ができるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	担当ケアマネと情報交換し、ご本人ご家族にとって、より良いサービスを提供できるよう相談に応じている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	介護者が、決して上に立たず思いやりを持って接し、ご本人の思いを知ることに取り組んでいる。一緒に食事をしたり洗濯物をたたんだり、会話する時間を多く持つようにしアットホームな関係作りを心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	面会に来られた時など、ご家族と情報交換を密に行なうよう努めている。ご家族の要望に耳を傾け一緒に支援する関係を築いていきたい。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	地域の催しに出かけた時に、声をかけて下さった時はホームにも遊びに来て下さる様お話している。馴染みの方が尋ねて来られた時も、認知症ということで関係が途切れないよう、お話させて貰っている。	利用者の入居前からの友人、知人がホームに訪問する機会が得られており、馴染みの方との関係継続にも取り組んでいる。また、利用者の中には親類が経営している店に出かけており、一緒に過ごす時間をつくっている方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	気の合う方たちが、和気あいあいと楽しく過ごして頂けるようテーブルの配置など工夫している。その方たちは良い関わりが出来ているが、現在の入居者7名中1名の方が好まれずマイペースに過ごされている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	入院による退居が多く、同法人の病院に入院されるので、いつでも面会に行ける環境になっている。退居された後も、必要があれば相談窓口になれるよう心がけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	常に利用者様本位のケアを検討し出来る限り、希望に沿えるよう努めている。何気なく言われた言葉も聞き逃さないようにし、「～が食べたい！」と言われた時は提供できるよう努めている。	職員は、担当制も活用して利用者の意向等の把握に取り組んでいるが、日常的に計画作成担当者でもある管理者にも報告されている。また、変化に合わせたカンファレンスが行われており、職員間の情報の共有と意向等の反映につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご家族に、これまでの生活について詳しく伺うと共に、日々の生活・会話の中でも把握できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々の心身の状態を記録に残し、毎朝 申し送りをすることでスタッフ全員が把握し、適切に対応できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	日々 状態の変化等を情報交換し、ご家族・ご本人の要望も伺うようにしているが、ご家族や必要な関係者を交えての担当者会議は出来ていない。職員全員が利用者様の担当を持ち、毎月モニタリングをしている。	介護計画の見直しは1年であるが、毎月の利用者の状態等の確認が行われていることで、変化に合わせた見直しが行われている。また、職員間で日常の細かな記録を行うことで、計画内容に合わせた毎月のチェックを通じたモニタリングが行われている。	介護計画の見直しについては、より短期間で行うことが望ましいこともあり、変化に合わせた見直しと合わせて、定期的な見直しにも期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個人記録の大切さを認識し、充実した記録になるよう努めている。また毎朝の申し送りでも内容を確認し合うことで情報を共有し、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	利用者様 一人ひとりのニーズに合わせ柔軟な支援が出来るよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	外に出かける機会を少しでも多く持つようにし、ホームにも音楽療法・南京玉すだれ・大正琴・そば打ち体験等のボランティアを招き、楽しい時間を過ごして頂けるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	日々の受診は、ご家族 納得の上、同法人の病院に職員が付き添って受診している。月2回の訪問診療も行なっている。現在、かかりつけ医の眼科や耳鼻科に、ご家族が付き添って受診されている方が2名みえる。	ホームの母体が様々な診療科目に対応した医療機関でもあるため、利用者の身体状態に合わせた受診支援が行われている。また、母体医療機関の看護師によるホームへの訪問が行われており、利用者の健康チェックが行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	週に1回、訪問看護があり利用者様の状態を伝え、必要に応じて相談し指示をもらっている。また訪問看護の日に関わらず、看護師に気軽に相談でき医師の指示も受けられる環境になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は詳しく情報提供し、入院中も毎日情報交換に努めている。(同法人の病院)また毎月グループホームの管理者会議があり、利用者様の状態を、院長に報告している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化された時は早急にご家族と話し合い、より良い選択が出来るようにしている。現在、ホームではターミナルケアは行っており、ご家族も入院を希望される。	法人内で重度の方への支援が行われていることもあり、ホームでの看取り支援については想定しておらず、家族とも状態変化に合わせた話し合いが行われている。母体の医療機関に療養型病床が整えられていることもあり、入院等にも対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時はマニュアルにそって対応し、同法人の病院に指示をもらうことになっている。救急救命法等の学習や訓練を今年度はまだ出来ていないので進めていきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回、防災訓練を行いスタッフも交互に参加できるようにしている。3日分の水・食料の備蓄があり運営推進会議でも互いに協力できるように話し合っている。地域の防災訓練にも利用者様と一緒に参加している。	年2回の避難訓練の際には、夜間を想定した訓練の実施や通報装置の確認も行われている。地域の災害訓練の際には、ホームからも参加する取り組みが行われており、協力関係につなげている。また、ホーム内に水や食料等の備蓄品の確保が行われている。	地域の方にホームの取り組みを知ってもらう機会が得られるように、地域の方にホームに来てもらう取り組みを継続することや、ホームで協力可能な支援についての検討を深める取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	理念に基づいたケアが出来るよう、毎朝 理念を再確認することで、1日のスタートとし、「人生の先輩」という気持ちを常に持ち、言葉かけや対応に気をつけている。	職員による利用者への対応については、「介護の基本」を職員間で唱和することで、日常的に意識するような取り組みが行われている。また、管理者から職員による利用者への対応について、良い取り組みについて評価するような働きかけも行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	「決定権は利用者様それぞれが持っている。」という意識の元、同意を得たり希望を伺うようにしている。利用者様の中には「仕事がない！」と言われる方も見えるので、洗濯・掃除等 出来ることをして頂いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	大まかな日課に添った生活にはなっているが、ご本人の意思が感じられる時は意思を尊重し、無理強いせず、その方のペースで生活できるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	隔月で訪問理美容があり、ご本人ご家族の希望で利用されている。娘さんが居室でカットされる方や息子さんが理容師でカット・毛染めをされる方も見える。また化粧品等の買い物も、希望に応じて支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	お昼は職員も同じテーブルで会話しながら食事している。行事食も1年を通して楽しんで頂けるよう工夫している。また、毎月 担当者が「手作りおやつ」を計画し、利用者様も楽しそうに参加されている。	管理者による基本メニューに基づきながら、職員による工夫、アレンジが加えられている。利用者の食事づくり等への参加の機会は限られているが、職員からの働きかけも行われおり、職員も一緒に食事を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事・水分摂取量は毎食チェックし、お粥、刻み等 その方に合った形態で提供している。水分が摂れない方には、声かけ・嗜好飲料・ゼリー等で少しでも多く摂って頂けるよう支援し、毎月体重測定も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後の口腔ケアを日課とし、ご自分で出来る方には声かけ、困難な方には必要に応じた介助をしている。歯痛の訴えや虫歯等 発見した時は、ご家族と相談し希望があれば歯科往診で治療できるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	布パンツで、時々失敗する方にも安易にリハビリパンツを使用せず、トイレの声かけ・見守り・介助等、状況に応じた支援を実践している。尿便意がなくオムツの方も腹部マッサージでトイレで排泄できる時がある。	職員は、利用者全員の排泄チェックを行っており、職員間でチェック表や申し送り等を通じて情報を共有しながら、声かけ等につなげている。また、日常的にも果物やヨーグルト等を取り入れる等、快適な排泄につながる取り組みも行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	便秘が悪化しないよう水分摂取量に気を配り、牛乳・ヨーグルトはほぼ毎日提供している。現在便秘がちな方が1名みえるが腹部マッサージで改善でき下剤の服用はしていない。運動での予防を検討していきたい。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	出来れば曜日や時間帯を決めない入浴支援をしたいが、それは出来ない。入浴は週3日(火木土)その中で、希望やタイミングに合わせて支援をしている。入浴剤を使用しゆったり入って頂けるよう努めている。	利用者は、基本、週3回程度の入浴を行っており、一人ひとりがゆっくりと入浴している。浴室が広いこともあり、重度の方の介助にも対応している。また、入浴剤を入れたり、季節に合わせた柚子湯や菖蒲湯等の楽しみも行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	就寝時間は決めず、ご本人の思いで休んで頂いている。入居したばかりの方は、夜間不安を訴えられることが多いので、寄り添い傾聴し安心して休めるよう努めている。また日中も希望にそった休息を提供している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	個々に処方された薬表をファイルし、すぐ見られる所に設置してある。処方薬に変更があった時は全員が把握できるよう申し送りの徹底に努め内服時は誤薬が無いよう名前・日付・朝昼夕をしっかりと確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	日々の生活の中で個々の持ってみえる力を発揮されている。またスタッフが寄り添い会話する時間を多く持つことで笑い声がよく聞かれる。毎月行事の担当が決まっており担当者は楽しい行事になるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	「○○に行きたい！」という個々の希望は殆どないが希望があれば支援したい。地域の催し物に参加したり、初詣 季節のお花見 喫茶店 外食等 外出の機会を多く持つようになっている。年に1回 ご家族をお誘いしての食事会も恒例の行事になっている。	ホームでは、その日の状況等にも合わせた外出支援に取り組んでおり、散歩や買い物等が行われている。また、定期的な外出行事の機会もつくられており、季節に合わせた外出や地域の行事の他にも、外食等の取り組みが行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	以前は、ご本人管理されている方もみえましたが、現在は希望がない。事務所預かりの方は、4名みえ希望時には、買い物の支援をしている。(希望で職員が代行することもある。)		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望がある時は、いつでも電話できる体制にしているが希望される方は殆ど無く、こちらから働きかけても「あんたが電話して！」と言われる。届いた手紙にも返事を！と、勧めろが「まあいいわ！」と書かれない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	フロアは日当たりが良く、利用者様は職員と一緒にゆったり過ごされている。毎月、季節感が出る壁面装飾を利用者様とスタッフ共同で作成している。また行事等の写真を隔月で貼り替え楽しんで頂いている。	リビング内はゆったりとしており、採光にも優れた環境でもあるため、利用者は日中を明るい雰囲気でも過ごすことができる。また、リビングには季節に合わせた飾り付けや、通路にソファが置かれてあり、利用者が一人になれる場所も用意されてある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	気の合う方同士、テーブル席を工夫している。ソファや廊下には長椅子を設置しているが、最近その長椅子で2~3人の方が仲良く話している光景がよく見られ微笑ましく思っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	使い慣れた椅子やテーブル、テレビ 筆筒など居室に配置できる範囲で自由に持ってきて頂き、利用者様が居心地よく過ごせるようにしている。	居室の入り口が玄関のような設備であり、利用者のプライバシーにも配慮されている。また、居室には馴染みの家具類や趣味の物が持ち込まれており、利用者や家族の希望にも合わせた居室づくりが行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	居室にネームプレートを貼っているが、それでも分かりにくい時は、その方に合った表示を工夫している。フロアは扉を開放し常に自由に入出りできるようにしている。状態変化により居室変更をお願いする事もある。		